

地震発生の際は校庭に避難せず教室で待機して身の安全を守ります

引き取り人への引き渡しも各教室で行います。(地震時)

★過去の地震被害を調査してみると

起きていること

- 恐怖で動けない / 避難途中に昇降口で失神
- 腰が抜けて動けない教職員の発生
- 校庭避難途中に転倒して骨折
- 余震で悲鳴 / 余震で嘔吐 / 余震で校外に逃亡
- 過呼吸 / 過呼吸が伝搬
- 机に頭を激突 / 階段で転倒 / 階段での転倒者が他の人を巻き込み
- 保護者と避難者が校庭に混在 / 校庭で転倒

校庭集合できない・必要性が低い。
→教師内待機の訓練の必要性が高い。

学校では起きない
こととなっていた

■ 過去に高確率で起きていること:

- 余震 (科学的には100%起きる)
- 停電・校内放送の停止
- けが人・体調不良者の発生

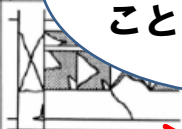
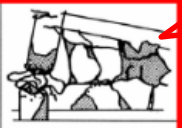
起きていないこと (阪神・淡路大震災以

■ Is 値 ≥ 0.7 の学校校舎の大破や崩壊は皆無

- 阪神・淡路大震災後、学校耐震
 - 99.9%が完了 (2024年10月時)
- 学校の耐震化: Is 値 ≥ 0.7
- 中破のケースすらほとんどない
 - 中破 < 大破 < 崩壊

■ 注意すべきところ:

- 渡り廊下等の接合部分
- 非構造部材には特に注意

大破	II	まわりに、せん断ひびわれが見られるもの。	
中破	III	柱に典型的なせん断ひびわれ・曲げひびわれ、耐力壁にせん断ひびわれが見られ、RC二次壁・非構造体に大きな損傷が見られるもの。	
大破	IV	柱のせん断ひびわれ・曲げひびわれによって鉄筋が露出・座屈し、耐力壁に大きなせん断ひびわれが生じて耐力に著しい低下が認められるもの。	
崩壊	V	柱・耐力壁が大破壊し、建物全体または建物の一部が崩壊に至ったもの。	

学校では起きる
こととなっていた

新基準・耐震化した
校舎の倒壊は 0

これらのことから、避難しないで教室で待機する地震想定訓練が不可欠

